

前回会議等での意見と修正の概要

番号	ページ	章	意見	修正の概要
1	3	第1章	(3)対象区域の図 グレーに示した名古屋都市計画区域について、周辺の都市計画区域の名称も入れ、周辺自治体との位置関係を示した方が良い。	周辺の都市計画区域、他の都市計画区域及び自治体の名称を追記した。
2	25	第2章	「都市施設の維持・更新」の記載について、今後都市インフラのメンテナンスに係る補助金の活用を考える際に、計画書内で「老朽化」に対応していくことがキーワードとして読み取れると良い。	下記のページに、施設の「老朽化」に対応する旨の記載を修正した。 ・P. 25 都市施設の維持・更新 ・P. 62 市営住宅の長寿命化 ・P. 64 災害時の移動確保に向けた道路の強靱化 ・P. 66 上水道施設の整備・更新、下水道施設の整備・更新 ・P. 66 ごみ処理施設の更新
3	70	第4章	方針1では「今ある緑や水辺を大切に守り、未来に引き継ぐ」とあるため、緑の基本計画に掲載されている、緑に関する施策を現した市のイメージ断面図を用いると良い。	第三次尾張旭市緑の基本計画に掲載予定の基本方針及びイメージ断面図を、コラムとして掲載した。
4	86	第4章	「まちなかの低未利用地を使った居場所づくり」に使用された写真は、尾張旭市の事例ではないため、誤解のない見せ方にした方が良い。	松山市の事例紹介であることをより明確にするため、コラム記事に修正した。
5	98	第5章	「中部地域のまちづくりマップ」の背景図は、隣接する地域との境界が曖昧になっているため、明確にした方が良い。	まちづくりマップの背景図は、基本的に道路を地域境界とするよう修正し、着色についても見やすく改善した。 ※他の地域のまちづくりマップについても同様に修正した。
6	98	第5章	まちづくりマップ内の取組の引き出し線に合わせて表示している「丸いマーク」は、どの目標に対応しているかが分かるよう、図中に凡例を入れた方が良い。	凡例を表示した。 ※他の地域のまちづくりマップについても同様に修正した。
7	122	第6章	市民満足度のような間接的な評価もあれば、事業進捗率のような具体的な数値による評価もある。もう少しアウトカムの指標を設定できると良い。	目標値の設定を見直し、5つの目標に対して、市民アンケートによる市民の主観的な満足度と、分析や事業進捗による数値指標といった、2つの指標により進行管理を行うこととした。 【目標Ⅰ】 市民満足度 ⇒ 変更なし 北原山土地区画整理事業の進捗率 ⇒ 市街化区域内の人口密度 【目標Ⅱ】 市民満足度 ⇒ 変更なし 都市計画区域内の緑被率 ⇒ 変更なし 【目標Ⅲ】 市内を運行する鉄道・バスの利用者数 ⇒ 円滑に市内を移動ができると感じる市民の割合 幹線道路の年間補修延長 ⇒ 市内を運行する鉄道・バスの利用者数 【目標Ⅳ】 市民満足度 ⇒ 変更なし 三郷駅前地区市街地再開発事業の進捗率 ⇒ 変更なし 【目標Ⅴ】 市民満足度 ⇒ 変更なし 活動発表会及び交流会への参加団体数 ⇒ ボランティア活動・市民活動をしている市民の割合

番号	ページ	章	意見	修正の概要
I 住環境の目標値について				
8	122	第6章	46ページに市街化区域内の人口密度の目標値「65.8人/ha」の記載があるため、指標として採用してはどうか。	「北原山土地区画整理事業の進捗率」については、事業完了時期が近づいている点、一部地域における取組という点を考慮し、これに代わり「市街化区域内の人口密度」を採用した。
9	122	第6章	北原山土地区画整理事業や目標Ⅳの三郷駅前地区市街地再開発事業は、ピンポイントの事業の進捗率が目標値に設定されているため、市全体の状況を表す指標の方が良い。	【目標Ⅰ】 市民満足度 ⇒ 変更なし 北原山土地区画整理事業の進捗率 ⇒ 市街化区域内の人口密度
II 自然環境の目標値について				
10	122	第6章	緑被率を維持するという指標を設定するなら、計画の前段で「緑が減ってきており食い止めることが必要」といった記載があった方が良い。	P. 20の今後求められていることの「緑と水辺の保全」に、「宅地開発や生産緑地の減少により、市内の緑は減少傾向にあります。」という文言を追記修正した。
11	122	第6章	緑被率の目標を「減らさない」とすることは、代替で緑をつくる・緑被率が低いところを高める等の施策が必要になるため、目標値はよく考えた方が良い。	目標Ⅱ自然環境の目標値「緑被率」については、方針や取組に掲げた「無秩序な転用の抑制」、「公共空間・民有地における緑の創出」などにより、減少に抗って現状を維持していくこととし、原案のとおりとした。なお、基準値については精査を行い33.0%に修正した。
III 移動の目標値について				
12	122	第6章	人口が減ると公共交通の利用者数も減ると思う。車から公共交通への転換を図るということを考えると目標値は適切か。	高齢者や免許返納者が増加する中で、過度に自動車に依存しない、歩いてでかけたくなるまちづくりを進めるためには、公共交通の利用促進も必要な取組であると考えている。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通の利用が減少し、現時点でも戻りきっていない状況にある。また、働き方の変化等により、今後も戻りきらないとも言われているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準にまで増やすことを目指すため、原案のとおりとした。
13	122	第6章	幹線道路を補修することによって、移動のしやすさが変わるのかという疑問が残る。また、延長がとても短いので指標としては適さないと感じる。	「幹線道路の補修延長」に代わり、市民の移動に対する満足度「円滑に市内を移動することができると感じる市民の割合」を採用した。 【目標Ⅲ】 市内を運行する鉄道・バスの利用者数 ⇒ 円滑に市内を移動ができると感じる市民の割合 幹線道路の年間補修延長 ⇒ 市内を運行する鉄道・バスの利用者数

番号	ページ	章	意見	修正の概要
IV楽しさの目標値について				
14	122	第6章	北原山土地区画整理事業や目標Ⅳの三郷駅前地区市街地再開発事業はピンポイントの事業の進捗率が目標値に設定されているため、市全体の状況を表す指標の方が良い。	目標Ⅳ楽しさの2つめの目標値「三郷駅前地区市街地再開発事業の進捗率」については、計画期間内に本格化する本事業の実現が、市全体にも影響を与える性質を持つことから、原案のとおりとした。
15	122	第6章	市街地再開発事業の進捗率ではなく、当該事業によりどのような目標が達成されているのかを図ることができる指標に置き換えられると良い。	
Vまち育ての目標値について				
16	122	第6章	活動発表会及び交流会への参加団体数を増やすのは難しいと思われることから、目標値として採用することは適さないと感じる。また、登録団体もある程度固定されており、その団体同士が交流をしたからといって、目標の姿である新たな担い手を増やすことにはならないと思う。	<p>目標Ⅴまち育ての目標値「活動発表会及び交流会への参加団体」に代わり、目標の意図である、みんなでまちを育てることにつながる「ボランティア活動・市民活動をしている市民の割合」を採用した。</p> <p>【目標Ⅴ】 市民満足度 ⇒ 変更なし 活動発表会及び交流会への参加団体数 ⇒ ボランティア活動・市民活動をしている市民の割合</p>
庁内策定部会等での意見				
17	—	表紙	本市の発行する計画書の「第●次」の表記は、尾張旭市第六次総合計画と整合を図り、漢字表記に統一すること。	本計画のタイトルを「第三次尾張旭市都市計画マスタープラン」に修正した。 ※計画書内の全ての「第3次」表記を、同様に修正した。
18	42	第3章	目標Ⅰを「住環境」としていることから、目標Ⅱ「緑・水辺・環境」についても、緑・水辺といった個別要素の単語を用いるのではなく、目標Ⅰと同じように、より包括的な視点を持ち、目標Ⅱ「自然環境」とした方が良い。	目標Ⅱ「自然環境」に修正した。 ※計画書内の全ての目標Ⅱ「緑・水辺・環境」の表記を、同様に修正した。